



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2001 4.11



<連載企画全5回スペシャル>

## 翔君の YMCAタイ農村ワークキャンプ旅行記①

3月11日～27日まで大槻孝宏リーダー（岩手大学3年）、伊東恵理子リーダー（岩手大学4年）、森貴裕くん（東北学院高校2年）、佐藤翔くん（盛岡一高3年）の4名は「盛岡YMCA国際協力募金」「仙台YMCA子供サポート募金」援助の下、タイワークキャンプに参加してきました。ご協力いただいた皆様にお礼とご報告の意味も含めて、今回から5回シリーズで「翔君のタイワークキャンプ体験記」を「もりおかYMCAニュース」に連載していく予定です。どうぞ皆様ご覧ください。

★大槻君と伊東さんは盛岡YMCA大学生ボランティアリーダー、森 貴裕くんと佐藤 翔くんは、中学生・高校生のボランティアグループ「GAN」のメンバー。

◎第15回仙台・バンコクYMCAタイ農村ワークキャンプ

- ・期間：2001/3/11～27（17日間）・行き先：タイ、バンコク/チェンライ/チェンマイ
- ・参加者：高校生3名/大学生8名/社会人1名/団長 高松成士（仙台Y職員） 計13名
- ・ワーク内容：山岳民族ラフ一族のBlessing Homeの集会所建設

3/11仙台空港に集まった参加者13名は、これからの不安と期待が入り混じった表情をしながら仙台を後にした、2時間後のフライト後関空に着いた。いよいよ明日はバンコクへ出発だ。

翌日、少し早めの起床でホテルから関空へ向かった。いろいろ手続きをした後、バンコク行きのANA機に搭乗した。参加者の大半が初海外のため少し興奮気味だ。中には「ニアミスならなければ..」という人まで。そんなこんなで無事日本時間AM10時に離陸した。バンコクまでは約6時間。でも、機内では映画や機内ラジオや新聞などがあり結構快適にすごせた。現地時間14:00バンコクについた。（ちなみに日本とタイは2Hの時差があり、日本の方が進んでいます）その後、バンコクYMCAホテルに移動し、バンコク初めての夜を迎えた。

13日、この日はバンコク市内を見学した。午前にはアユタヤ遺跡という町全体が遺跡というところを見学した。日本人観光客がたくさんいた。しかし、日本人観光客のマナーの悪さに絶望した場面もあった。

夜はパボン通りというバンコクを中心街にある観光客向けの市場へ行った。本当に活気で溢れていた。ここではディスカウントが当たり前。タイの民芸品から日本のゲームボーイやロレックス？というブランド品？まで売られていた。でも日本人には高く売るのでご用心☆

### <タイワーク日程表>

- 3/11 仙台空港→関空(ホテル泊)
- 3/12 関空→バンコク国際空港  
(バンコクYホテル泊)
- 3/13 バンコク市内見学  
(バンコクYホテル泊)
- 3/14 バンコク→チェンライ(航空)  
・首長族訪問
- 3/15～21 ワーク(Blessing Home)  
(職業訓練センター泊)
- 3/22 チェンライ→チェンマイ(ワゴン)  
(チェンマイYホテル泊)
- 3/23 チェンマイ→バンコク(寝台列車)
- 3/24 ホームステイ
- 3/25 バンコクY主催送別パーティー  
(バンコクYホテル泊)
- 3/26 Happy Home見学  
バンコク国際空港→関空(27日着)



ニシキ蛇を首に巻く大槻リーダー

## 地の塩

「新田を耕せ。いばらの中に種を蒔くな。」  
(旧約聖書エレミヤ書4章3節)

終戦の年(1945年)樺太で約50名の若者が原野を開拓していました。若者といっても今でいうなら中学2年生です。部活動だ。勉強だ。ゲームだ。言っている年頃です。

彼らは、原野に入って鋸を使って木を切り倒し、鋤を使って根株を掘り起こし、石ころを取り除きました。また、目的地に行くまで道路も作らねばなりません。決して楽な仕事ではありません。

1ヶ月かかってやっと畑らしくなりました。新しくできた耕地を何回か掘り起こし、石や木の根株などの土の中に残っているものを全部取り除きました。そしてすばらしい畑ができました。よい地となったのです。それから最後に畦(うね)をつくり、ジャガイモを切って切り口に灰をまぶして、おいていきました。この最後の仕事はわずか2時間で終わってしまいました。

そう、彼らの目的はジャガイモを植えることだったのです。そして、たった2時間の仕事のために、彼らは来る日も来る日もつらく単調な仕事を繰り返したのです。

ジャガイモを豊かに収穫するためには、新田を耕すことが必要だったのです。

宇佐美 正海著「よい地に種を」より

勉強、スポーツに限らず、すぐできるようになる子、なかなか伸びない子、平均的な伸びをする子、子どもは様々だ。しかし、ひとつ言えることは、たとえ点数には現れなくても、見た目にわからなくともその子の中に脈々と力が蓄えられていくことだ。

それに気づかず目に見える表面的なところのみに目をとられてあきらめてしまうことが多いような気がする。結果が現れるまでの時間は人それぞれである。新田を耕す時には個人差があるのだ。大切なのは収穫の時を信じ続けることではないだろうか。(濱)

